

## くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL. 8

開催地：湯前町

平成 19 年 6 月 4 日（月）、湯前町において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

湯前町保険センターにて開催された同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

町内	14 名
町外	4 名

※参加者数は記名者数

### 住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

#### 【河川整備基本方針の説明について】

・森林の洪水緩和機能について限界があるとのことだが、山の質について説明がされていない。森林によって干ばつの時は水が流れてきて、大雨の時は守られるという地元の人達の考えは科学的には勘違いということか。

#### 【球磨川の治水対策について】

- ・湯前町では近年浸水被害が生じていないが、人吉やその下流では洪水により怖い思いをしている。早く洪水対策を行い、住民を安心させて欲しい。
- ・林道が壊れてその土砂が県が管理する川に流れ込み氾濫するという話を聞いたことがある。縦割り行政でなく、早急に対策を行って欲しい。
- ・球磨川に流れ込んでいる支流に土砂が多く流れ込み天井川になっており、将来的にはあふれ出すのではないかと心配している。土砂を取り除くなど対策を行って欲しい。
- ・ダム下流の住民には安全になったと思い洪水時に避難しない人がいる。ダムができて想定外の洪水がくれば危ないということを伝え、避難を勧めるのが行政の役目ではないか。
- ・ダムではない治水をすすめていくべき。
- ・東シナ海を低気圧がゆっくり通過した場合、一時間で 50mm、一晩で 600 ～ 700mm もの雨が降ると考えなければならない。そのような場合にどのくらいの流量になるのかというのも考えなければならない。
- ・瀬戸石ダムができて水位に落差が生じているが、落差を解消すれば流速が早くなり、断面積が同じでも今よりも多くの水量を流すことができるようになる。昔はダムが無かったから流れが速かった。流速が早くなる方法を検討して欲しい。瀬戸石ダムも改良すれば速く流れるようになると思う。
- ・国土交通省の降雨量の予測だが、観測地点が五木や泉など非常に少ない。気象庁とよく連携すべき。
- ・想定外の水害が無い前提でダムの安全性を評価しているわけで、必ず想定外の雨は降る。川辺川ダムに頼るのではなく、低気圧を人為的に動かしたり、台風を消滅させるなど気象条件を完全にコントロールできてから初めて、生命と財産を守ることができると言って欲しい。そうでない限りは、安心感を与えるような説明をしないで欲しい。
- ・人吉で大きな被害を受けた時の洪水でダムの放流に疑問を持っているという話を聞いた。人吉の人が市房ダムの操作に不安と不満を持っていることについてどう考えているのか。

#### 【球磨川の環境について】

- ・昔はこの時期になると、子供たちが銚突などをやっていた。川の水もきれいで市房ダムを作る前は川の水を飲んだり、川に入っても風呂に入らないでよいくらいきれいだった。今は川に入ると皮膚病なども心配である。球磨川の水はきれいとの説明があったが体感とは異なる。水質の確保を県と併せて行って欲しい。
- ・市房ダム下流には大きな石しかない。砂利や砂が無いと川が浄化されない。湯山の橋の下に砂利がある。浄化対策を進めるため、市房ダム下流に砂利を持って行くことを検討して欲しい。

- 川に横断的に石をおいて川をせき止めて魚のすみかを造ってもらっているのはありがたい。
- ダムに土砂がたまり下流に流れないことで宮崎や高知で海岸が後退している。ダムを造って、海岸線は埋め立てた以上に減っている分が多い。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

